

CHOPIN
magazine

I ♥ PIANO
ピアノ音楽誌
July 2016 No.390

7

特集1

熊本被災地 応援メッセージ

熊本被災地
応援!

特集2

先生&現役学生による 音楽学校ガイド

エリザベート王妃
国際音楽コンクール ピアノ部門

interview

ミシェル・ダルベルト

シャルル・リシャール＝アムラン

ピアノデュオ ドゥオール (藤井隆史&白水芳枝)
Pianoduo Deu'or
(FUJII Takashi & SHIRAMIZU Yoshie)

ピアノデュオの 美しさを広める

日本であまりピアノデュオが浸透していなかった時代から、デュオ一筋で活動してきた『ピアノデュオ ドゥオール』。演奏活動はもちろん、近年は次世代の育成にも力を入れている。これまでなかなか機会の無かった『ピアノデュオセミナー』を開催する彩の国さいたま芸術劇場でお話をうかがった。

Pianist Special Interview No.245



©武藤章

ピアノデュオ ドゥオール

(藤井隆史&白水芳枝)

Pianoduo Deu'or

(FUJII Takashi & SHIRAMIZU Yoshie)

2004年にドイツにてデュオ結成。藤井隆史は東京藝術大学卒業、同大学院修了。現在、武蔵野音楽大学講師。白水芳枝は東京藝術大学卒業。現在、国立音楽大学講師。文化庁、DAAD、野村国際財団の奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院にてR・ベッツ、P・ダン両氏に学び、ソロ科、ピアノデュオ科を最優秀修了。結成直後からロンドン、青山財団バロックザール賞、シューベルト、ドラゾフなど国際的な賞を受賞。国内外での演奏活動や、リリースした6枚のCD全てが高い評価を受けている。これまでに踏んだステージは550以上。また、NHK等の放送や講座にも数多く出演し活動の幅を拡げている。ピアノデュオでの後進の指導にも力を注いでおり、今後の更なる展開が期待されている。

<http://www.yoshie-takashi.com/>

文◎編集部坂井孝著

写真◎山路ゆか(※以外)

取材協力◎彩の国さいたま芸術劇場

大好きな 彩の国さいたま芸術劇場



音楽ホール入口

彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

JR埼京線与野本町駅西口より徒歩7分

TEL:048-858-5500 (9:00 ~ 19:00) / FAX:048-858-5515

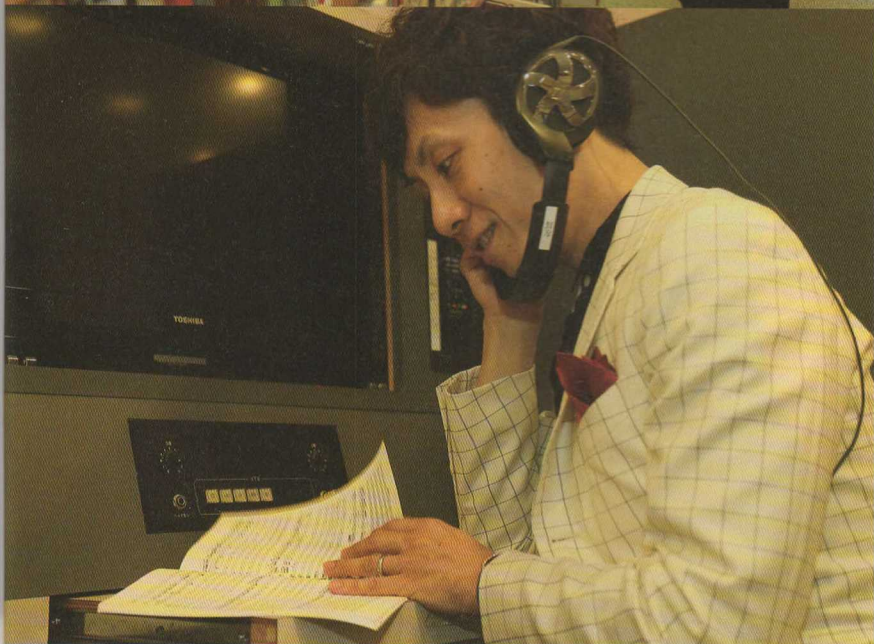
8月31日(水)から9月3日(土)の4日間にわたるピアノデュオセミナーを開催する『ピアノデュオドゥオール』のお二人。連弾または2台ピアノのデュオでの受講、ドゥオールと2台ピアノを弾く受講の、2コースのセミナーだ。会場となる彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール(さいたま市中央区)とは、昔からの縁があるそうだ。

「2006年に日本に帰国してからしばらくして、埼玉会館(さいたま市浦和区)で演奏させていたのですが、その時お手伝いくださった方がさいたま芸術劇場でもお仕事をされていて、それ以来交流がありました。私たちはここではまだリサイクルを

していませんが、聴きにうかがった時、すばらしいホールだなと感じました」(白水さん)

「それこそ大物の方々が演奏するイメージがあり(笑)、敷居が高かったのですが、2014年の結成10周年の時のCD(9ページ参照)をレコーディングをすることになったのです。この号の表紙を撮影した回廊がきれいだなとか周りを見る余裕は当時はありませんでしたが、音楽と演劇、映像と、劇場の空間そのものが刺激的ですし、またホールのピアノもとても良かったですね」(藤井さん)

「スタッフさんとても良くしてくださる、居心地の良いホールなんです！」(白水さん)



舞台芸術資料室。演劇・音楽・舞踊・映像・舞台芸術の分野の図書、CD、DVD、雑誌等さまざまな資料を所蔵。閲覧・視聴も出来る





『光の庭プロムナード・コンサート』が開催される1階情報プラザ。バラの花は近隣の『中央区バラサポーター』により、5月21日のコンサートのために飾られていたもの。ポジティブ・オルガンを中心としたアンサンブルによるコンサートは入場無料で、これまで84回を数える



ピアノデュオセミナー

日々ピアノデュオのレッスンをする中で、デュオ漬けになる場所の必要性を感じ、このセミナーを企画したという。

「2台ピアノの練習場所がなかなか無いとか、一緒に弾いていてもこれで良いのかわからない、コンクール以外に、継続して学ぶ機会が見つけれない、という方が多く、それはもったいないなと思っていました。ドイツでのピアノデュオ科での2年間は、朝から晩まで練習できる環境があったのですが、日本ではなかなか難しい。向こうではピアノを習う子供たちがオーケストラ作品に親しむために2台ピアノ編曲版を、という感じで楽譜もたくさんありデュオはもっと身近ですが、日本ではどんなレパートリーがあるのかも知られていません」(藤井さん)

「最初は月に1回ということも考えたのですが、皆さんで毎月時間を作るのは大変だから、1年に1回、4日間連続でやってみよう」(白水さん)

「ダメ元で思い切ってさいたま芸術劇場さんにお話を持っていたところ、教育プログラムを探してらっしゃった時で、その場で『日程はいつにされますか』と言ってくださったのです！」(藤井さん)

「そして、さいたまでこんなことをしますと周囲にお話したところ、ぜひ関西でも！と声をかけてくださり、短縮型ですが2回させていただきます。受講された皆さんが、飛躍的に上達され、ただ二人が合っているだけでない、その先のピアノデュオ独自の世界を見せてくれるようになりましたね」(白水さん)

「本格的にされている方はもちろん、デュオを体験したいという方も大歓迎です。音源審査はありますが、お一人でも、ブルグミュラーの《25の練習曲》の中から1曲弾ければ、舞台で僕たちと2台ピアノで弾けますから。お子さまからおじいちゃん、おばあちゃままで、どなたでも楽しんでいただけるプログラムです！」(藤井さん)

さいたま芸術劇場の中心、情報
プラザのカラフルな椅子

コンサート情報

『山王セレクション No.214』

6月26日(日) 15:00 山王オーディウム
問山王オーディウム 03-3774-1571 info@sannoaudium.com

『夏の前奏曲～左手から2台8手まで』

7月10日(日) 14:00 東京オペラシティ リサイタルホール
問東京オペラシティ チケットセンター 03-5353-9999

『ふちだ楽器店 ゆめタウン廿日市センター 1周年記念 ピアノデュオ ドゥオール』

7月16日(土) 18:00 はつかいち文化ホールさくらびあ 小ホール
問ふちだ楽器店広島店 0829-31-1050

『ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー』

8月31日(水)～9月3日(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
課題曲等、受講の詳細はお問い合わせください(6月30日必着)。聴講あり。

問ドゥオールセミナー in 彩の国さいたま芸術劇場係
lesson@yoshie-takashi.com http://www.yoshie-takashi.com/seminar.html

『ピアノデュオ ドゥオール コンサート』

9月25日(日) 15:30 ヤマハ大阪ビル3Fサロン『アルモニ』
問ヤマハ難波センター 06-6531-8061

『宗次ホール スイーツタイム コンサート』

10月2日(日) 13:30 宗次ホール 問宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

『ピアノデュオ ドゥオール コンサート』

10月22日(土) 14:00 音楽ホール&ギャラリ『里夢』
問ノース・ロード・スタジオ 06-7501-9305 north-road-studio@zeus.eonet.ne.jp

『ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー in ジュエ』

10月23日(日) 14:00 カワイ梅田コンサートサロン『ジュエ』
課題曲等、受講の詳細はお問い合わせ下さい。聴講あり。
問ノース・ロード・スタジオ 06-7501-9305 north-road-studio@zeus.eonet.ne.jp

『Joy of Chamber Music Series/ Kawai Salon Concert In Omotesando』

ゲスト出演(田崎悦子氏監修)

11月11日(金) 19:00 カワイ表参道コンサートサロン『パウゼ』

『世田谷美術館 第248回プロムナード・コンサート』

ドゥオール ピアノデュオコンサート
11月27日(日) 14:00 世田谷美術館1階講堂
問世田谷美術館 03-3415-6011 (応募受付開始:9月4日)



音楽ホールの壁に置かれている、
彫刻家・望月菊麿による『輝虹』

音楽界での役割

留学当初はお互い、デュオをするつもりは無かったというお二人。たまたま演奏を依頼されたことからデュオの世界にのめり込み、ソロの勉強を終えてからデュオのために留学を延長。デュオでやっていくという強い信念を持って帰国した。しかし、当時の日本ではデュオはまだ浸透度が低く、「ソロも入れてください」「デュオだけだとちょっと」などと言われていた。

「デュオを弾かせてもらえる機会が

あれば、どんなことでも財産、引き出しになると思ってやってきました。いろんな所に、聴いてください、弾かせてくださいと回って、積み上げてきました。2014年で結成10周年を迎えましたが、その間にずいぶん世の中が変わった印象があります。自分たちが依頼を受ける機会も、デュオを弾く人も、増えてきていますよね。増えているっていうことは、どうやっていけばいいのか、わからない人も増えているはずなんです。僕たちの経験は、そういう方々の助けになるんじゃないかなと思うんです」(藤井さん)

「同じメンバーですつと続けていくってすごく大変だと思っんですよ。大人になってそれぞれ家庭ができたら事情も変わりますし」(白水さん)

「いつ起きていつ食べるか等、生活の中にはリズムがありますから、練習の時間だけばつと合わせると言ってもなかなか難しいですよ。僕たちは夫婦だからというだけではなく、人間としての相性も良いと思います。もともとプライベートでけんかすることもほとんど無かったですし、生活もほぼ一緒です。今ではドゥオールという名前が、昔よりは定着してきたのか、『ソロも……』なんて言われることはほとんどありません。

デュオとして演奏していく、デュオのすばらしさを伝えていくことが、僕たちの音楽界での役割なのかなと思います」(藤井さん)

音楽の上では表現等意見が食い違うことはあるというが、

「そこはお互いを尊重出来るかということと、言い方で変わってきますね」(白水さん)

「音楽以前の、社会で生きていくためのマナーですね。メールでの伝え方一つとってもそうだと思います」

(藤井さん)

「今でも覚えているのが、2台ピアノで弾いている時は目線が大事じゃないですか。私は音楽に入りこんで弾いているつもりが、『何でそんなににらむの?』って言われました。弾きながら上目遣いでちらっと相手を見るのが、にらんで見えたんですね。些細なことなのですが、デュオではそういったことの積み重ねが大問題に発展しかねないので(笑)、その場で解決していくことが大切なんです」(白水さん)

「そういうところで客観性が生まれるのも、デュオならではですね」(藤井さん)

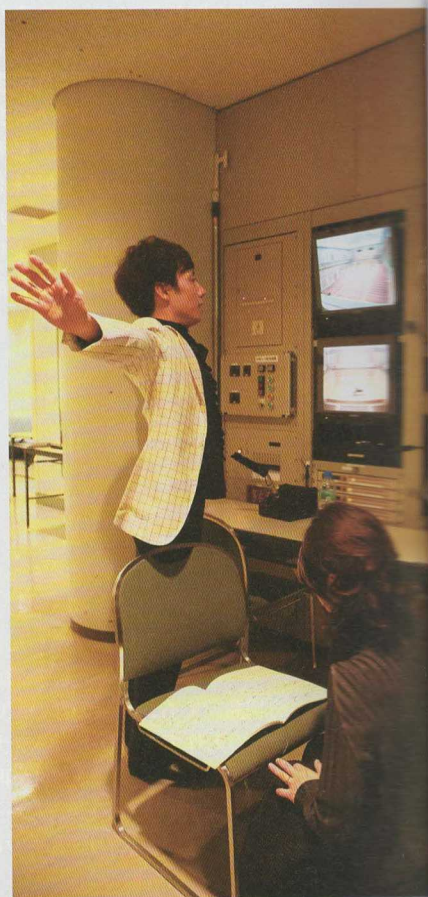
たくさんの希望

日本におけるデュオという新大陸

を懸命に開拓してきた。自分たちで出来ることは何でもしてきたが、近頃は社会とのつながりも意識しているという。

「セミナーも、デュオで困っている方々を助けるのはもちろん、たとえば地域の子供たちに来てもらって、一つの共有スペースを作るような……デュオの基盤作りをして10年が過ぎ、これからは皆さんに還元しながら一緒に出来ることを考えています。また、以前は言う前に自分たちでした方が早いと思っていたので、が、手伝うよと言ってくださる方にはお願いした方がいろいろと広がっていくかなと思うようになりました」(藤井さん)

「私たちは二人で動いているので、二人で社会が出来上がってしまうのですが、これからはもつと人と関わっていかねければならないと思うんですね。関西のセミナーでは全面的にお手伝いしてくださる方がいて、

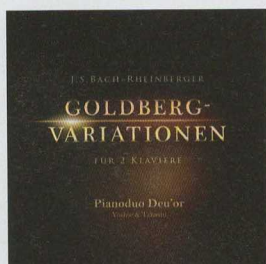


本番前の舞台袖では、藤井さんはストレッチにはげみ、白水さんはじっと楽譜を見つめているという



『Carnaval!』
Studio N.A.T (NAT-13361)
¥2,700+税
結成10周年に、このさいたま芸術劇場音楽ホールで録音。
[曲目] ラヴェル: マ・メール・ロワ (4手連弾) / デュカス: 魔法使いの弟子 (2台ピアノ) / サン=サーンス (ガーバンによる4手連弾版): 動物の謝肉祭

今回も埼玉まで来てくださるのですが、夢のようです。10年前では考えられなかったです」(白水さん)
こつこつと、「ピアノの下で寝ていた」時代から積み重ねてきた努力が実を結んできたようだ。これからについてうかがうと、
「昨年ずっとやりたかった『ゴルトベルク変奏曲』のCDを出し、6枚目になりましたので、しばらく録音はお休みでもいいかな(笑)」と思っています。コンサートでは先方から『今度はこれをお願いします』と言われることが多くなってきました。今までは『僕たちの音楽はこうです!』と



『GOLDBERG-VARIATIONEN』
Studio N.A.T (NAT-15291)
¥2,700+税
6枚目のCDは、あの『ゴルトベルク変奏曲』の2台ピアノ版!
[曲目] J.S. バッハ (ラインベルガー編): ゴルトベルク変奏曲

提示してきましたが、先方の提案を自分たちの経験として受けていこうと考え始めています」(藤井さん)
「私たちの活動をずっと見ていてくださる方々のご提案がすごくありがたいですし、別の面を出しているのかなって。去年からはアメリカの作品を入れたりしています」(白水さん)
「レパートリーの幅が広がりましたね。こうやって演奏のお仕事があつて、自分たちが弾けて、ピアノデュオで僕たちの役割を認識してくださって……どんな小さな場所でもデュオを伝えていきたいです。いろんな方々に出会って」(藤井さん)
「広がっていききたいです。デュオの人口も増やしていきたいですし、デュオと他の楽器と、という形も持てたらと思っています」(白水さん)
「野望は無いけれど、希望だらけです!」(藤井さん)